

令和 6 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K11459

研究課題名（和文）「ウィルダネス」環境下における野外教育プログラムが体験者の自我再構築に及ぼす影響

研究課題名（英文）Effects of outdoor education programs in Wilderness environments on the ego reconstruction of experiencers.

研究代表者

渡邊 仁（Watanabe, Hitoshi）

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：70375476

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：近年、野外教育プログラムに関する研究は、プログラムが展開される「場」自体の意味や機能・構造に注目が集まっている。例えば、公園・里山・人工林・ウィルダネス等は、一般に「自然のある環境」と認識されるが、それぞれ似て非なる「場」の価値を持っている。本研究の目的は、児童期から青年期を対象にウィルダネス環境下で野外教育プログラムを実践し、特に「ウィルダネス」という場が、体験者の自我や自己にどのように影響を与えているかを検討することであった。本研究の成果は、「自然の深さ」あるいは「他者や自然との関係性」が、体験者の自我の再構築に一定の影響を与える要因であることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、野外教育プログラムは自然環境で実践されるが、自然環境は単に活動空間ではなく、「神秘性」「荘厳性」「他者や自然との一体感」などを体験させる重要な場であることが示唆され、今後の野外教育の「場」の本質論の萌芽的研究となったことである。また本研究の社会的意義は、指導現場への自然環境の再認識を促進し、我が国の青少年教育としての野外教育プログラムの実践を後押しするエビデンスの蓄積となったことである。

研究成果の概要（英文）：In recent years, research on outdoor education programmes has focused on the meaning, function and structure of the 'place' itself in which the programmes are developed. For example, parks, Satoyama, artificial forests and Wilderness are generally recognised as 'environments with nature', but each has similar and different 'place' values. The aim of this study was to implement an outdoor education programme in a wilderness environment for children and adolescents, and to examine how the place of 'wilderness' in particular affects the ego and self of the experiencers. The results of the study confirmed that 'depth of wilderness' or 'relationship with others and nature' is a factor that has a certain influence on the reconstruction of the experiencer's ego.

研究分野：野外教育

キーワード：野外教育 自然体験プログラム キャンプ 教育学 ウィルダネス

1. 研究開始当初の背景

近年、野外教育における自然環境の位置づけは、ややもするとキャンプやスキーを行う「単なる物理的空間」に留まっており、本来的な「自然」の意味が忘れ去られている懸念がある。そこで、ウィルダネスをはじめとする「自然環境」を、単なる物理的空間や癒し空間としてだけでなく、自我や自己形成に重要な影響を与える価値ある「場」と再認識する必要性が生じている。

2. 研究の目的

本研究は、第一に「ウィルダネス」環境下において、児童期から青年期のクライアントに、教育キャンプ等の野外教育プログラムの実施を試みる。そして「ウィルダネス」での本プログラムが、どのようにクライアントの自我に影響を与えているかを、短期から長期という視点から、量的および質的アプローチから効果を検証し、その有用性を明らかにすることを目的とする。

同時に、野外教育における「ウィルダネス」の概念整理を進めつつ、ウィルダネスという「場」にクライアントが身を置くことの意義や価値、あるいはウィルダネスとクライアントにはどのような関係性が生じているのか、その効果機序を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

以下の3点の方法から取り組む。

(1) ウィルダネス環境における野外教育プログラム(高校生の富士登山プログラム、学生の組織キャンプほか)を実践し、自尊感情・自然に対するイメージや態度・ソーシャルサポート・創造性等の変容を量的に検証する。

(2) 野外教育プログラムを体験者に対して、数ヶ月後に自伝的記憶を想起させながら質的データを収集し、自然環境と自己変容の関係について質的に検討する。

(3) ウィルダネスの概念を整理し、ウィルダネスを体験することによって醸成される自然観を測定するための尺度を作成する。

4. 研究成果

(1) ウィルダネス環境下である富士山への集団登山が高校生の自己に及ぼす影響

本研究は、富士山への集団登山プログラムが高校生の特性および状態自尊感情に及ぼす影響を量的に検証し、その変容要因についてプログラム構造および参加者の省察等から質的に探索した。

その結果、①高校生の特性自尊感情は、一連の集団登山プログラム体験によって高まり、5ヶ月後まで維持され、その水準が定常値となった。②高校生の集団登山プログラム体験による状態自尊感情は、プログラム直後に高値に推移していた。しかしながら、状態自尊感情の変動量と特性自尊感情の変化量に因果関係は認められず、状態の変動が大きかったものが必ずしも大きな特性的変容を起こすものでなかった。ただし、状態自尊感情と特性自尊感情の変数間には、高い相関が認められた。③状態自尊感情の向上には、登頂の成功・困難に勝つ・他者から頼られる、といった登山中のポジティブな出来事が要因であった。そして登山中の心身疲労や高揚感による「自我の水準低下」の状況下で、ポジティブな出来事をより個人的な印象深い体験にしておき、結果的に状態自尊感情を高める重要な機序となっていた(表-1)。

また、登頂対象の「富士山」は、単に物理的に高い山という意味だけでなく、帰属集団の象徴性が内在する山であったことが重要であった。つまり、そのシンボルに精神的かつ身体的に到達したことが、自尊感情の変容要因として位置づいていた。さらに、本プログラムの経済的支援構造および献身的なスタッフ支援態度は、厳しい現実社会を生きる高校生に対して、「無条件の肯定的関心」的な社会メッセージとなって届き、彼らの自尊感情を刺激する変容要因であった。

(2) ウィルダネス環境下での組織キャンプ実習が学生の創造的自己に及ぼす影響

本研究は、ウィルダネス環境下における学生の組織キャンプ実習が創造性への認識(Creative Self)にどのような影響を与えるのかを明らかにするために、創造的自己効力感(Creative Self-Efficacy)と創造的マインドセット(Creative Mindsets)の観点から検証を行った。実験群はウィルダネス環境下での集中型授業(6泊7日)12名、対照群は身近な自然環境での定時型授業(全10回)49名であった。

その結果、実験群および対照群のいずれにおいても、Creative Self-Efficacyに授業前後で変化は認められなかったが、Creative MindsetsのFixed因子のみ有意な低下が認められた(表-2)。つまり、学修者の創造的自己効力感は向上しなかったが、創造的マインドセットに関して、創造性は生まれ持った天性の能力であるというような固定的思考は低減し、前向きな認識を形成していった。なお、創造的自己に関しては、「自然水準」の深さの違いによる変化差は認められなかった。

(3) 自然観尺度の作成

自然観の構成概念の解明するために、ベテランの野外教育指導者3名や先行文献から検討をおこない、その検討結果をもとに自然観尺度(原尺度)の項目群を作成した。原尺度を622名に回答してもらい、探索的ならびに確認的因子分析を行った結果、6因子24項目(本能の賦活、

自然の荘厳、自然中心主義、安寧、人間中心主義、混沌) からなる「自然観尺度」を作成した。

(4)原生自然観尺度の作成

ウィルダネス環境に身をおくことで、どのような自然観を醸成していくのかを測定するための尺度作成に取り組んだ。Borrie (1995) が示した Wilderness Experience Scale の6概念(Oneness・Timelessness・Primitiveness・Humility・Solitude・Care)をもとに検討し、692件のデータの因子分析を通して、3因子構造(自然に対する尊厳、事前による時間超越、自然との一体感)の原生自然観尺度を作成した(表3)。

表-1 省察的自由記述の分類(帰路バス:3日目夕)

【メインカテゴリー】	<サブカテゴリー>	[コード]
【達成・歓喜】	<楽しさ>	[全体的な楽しさ]
	<達成感>	[純粋な達成感] [困難からの達成感]
	<歓喜>	[登頂の安堵と喜び] [困難からの登頂の喜び] [喜びの終焉・寂寥感]
	<友達ができた喜び>	[新しい友達] [素晴らしい仲間との出会い]
【仲間の存在】	<仲間との登山>	[全員が登頂できた喜び] [仲間との交流] [仲間の存在に支えられた登山]
	<プロジェクト自体への感謝>	[プロジェクト自体への感謝] [仲間やスタッフへの感謝]
【感謝】	<他者への感謝>	[大人(スタッフ・スポンサー・家族等)への感謝] [全て関係者への感謝]
	<登山再挑戦の意欲>	[富士山への再挑戦] [異なる登山への挑戦]
【意思】	<決意>	[将来への決意] [何かに生かす決意]
	<体験共有の衝動>	[身近な人への自慢] [身近な人への報告] [多くの人に同じ体験を]
	<多くの気づき>	[様々な学びの実感] [日常のありがたさ] [積み重ねの大切さ]
【学び】	<成長の自覚>	[登山完遂が自分の自信に] [自分成長への喜びや驚き]
	<登山の印象>	[幸運だった登山] [あっという間] [象徴的な富士] [山の素晴らしさの実感]
【登山行為の再認識】	<登山の過酷さ>	[登山の大変さ] [身体的な痛みや疲れ]

表-2 各指標における記述統計量および分散分析結果(2要因:時期×授業型)

		pre		post		時期	授業型	交互作用	
		mean	SD	mean	SD				F
Creative Self-Efficacy	集中型	20.4	4.5	20.1	2.9	0.66	0.46	1.73	
	定時型	18.7	4.6	20.1	4.9				
Creative Mindsets	Growth	集中型	20.7	2.7	20.7	3.5	0.02	0.02	0.23
		定時型	20.2	3.2	20.3	3.1			
	Fixed	集中型	12.8	3.2	11.3	4.3	5.20 *	0.12	0.05
		定時型	13.1	4.1	11.9	3.9			

通常型; n=49, 集中; n=12

* p<.05

表-3 原生自然観尺度

自然に対する尊厳	私は、大自然に対して誠実な対応をしたい
	私は、大自然が永遠に続くよう行動していきたい
	私は、大自然に人工社会からの解放を感じている
	私は、大自然の静寂(せいじゃく)を感じている
自然による時間超越	私は、大自然の中で、昔の人々の生き方を感じている
	私は、大自然の中で、遠い昔と繋がっていると感じている
	私は、大自然に悠久(こうくう)の時を感じている
自然との一体感	大自然の中では、私は「今」を忘れている
	私は、大自然に完全に溶け込んでいると感じている
	私は、大自然を自分の居場所だと感じている
	私は、大自然と特別な親密さを感じている
	私は、大自然が私を受け入れてくれているように感じている

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 渡邊仁、坂本昭裕
2. 発表標題 野外運動授業が学修者の創造的自己に及ぼす影響に関する予備的検討
3. 学会等名 日本野外教育学会第25回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡邊仁、高橋達己
2. 発表標題 2022年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究 - 状態自尊感情・自然観・富士山イメージの変化 -
3. 学会等名 東北の高校生の富士登山2022報告書
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡邊仁
2. 発表標題 富士登山プログラムが高校生の「自分という居場所感」に及ぼす影響
3. 学会等名 日本野外教育学会第23回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Watanabe Hitoshi, Tabei Shinya, Takahashi Tatsuki
2. 発表標題 Effects of Climbing Mt. Fuji as a Group Mountaineering Program on Self-Esteem of Japanese High School Students
3. 学会等名 10 th International Outdoor Education Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 渡邊仁
2. 発表標題 森林環境における野外運動授業が大学生の創造性に及ぼす影響
3. 学会等名 第135回日本森林学会大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 渡邊仁, 高橋達己
2. 発表標題 2023年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究 - 状態自尊感情・ソーシャルサポート・自然に対する態度の変化 -
3. 学会等名 東北の高校生の富士登山2023報告書
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡邊仁, 高橋達己
2. 発表標題 2021年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究-状態自尊感情・多面的感情・P-N体験の変化-
3. 学会等名 東北の高校生の富士登山2020/2021報告書
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 達己 (TAKAHASHI Tatsuki) (21007031)	筑波大学・体育系・特任助教 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	折居 巧朗 (ORII Takuro)		
研究協力者	田部井 進也 (TABEL Shinya)		
研究協力者	福島 暉人 (FUKUSHIMA Akito)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関